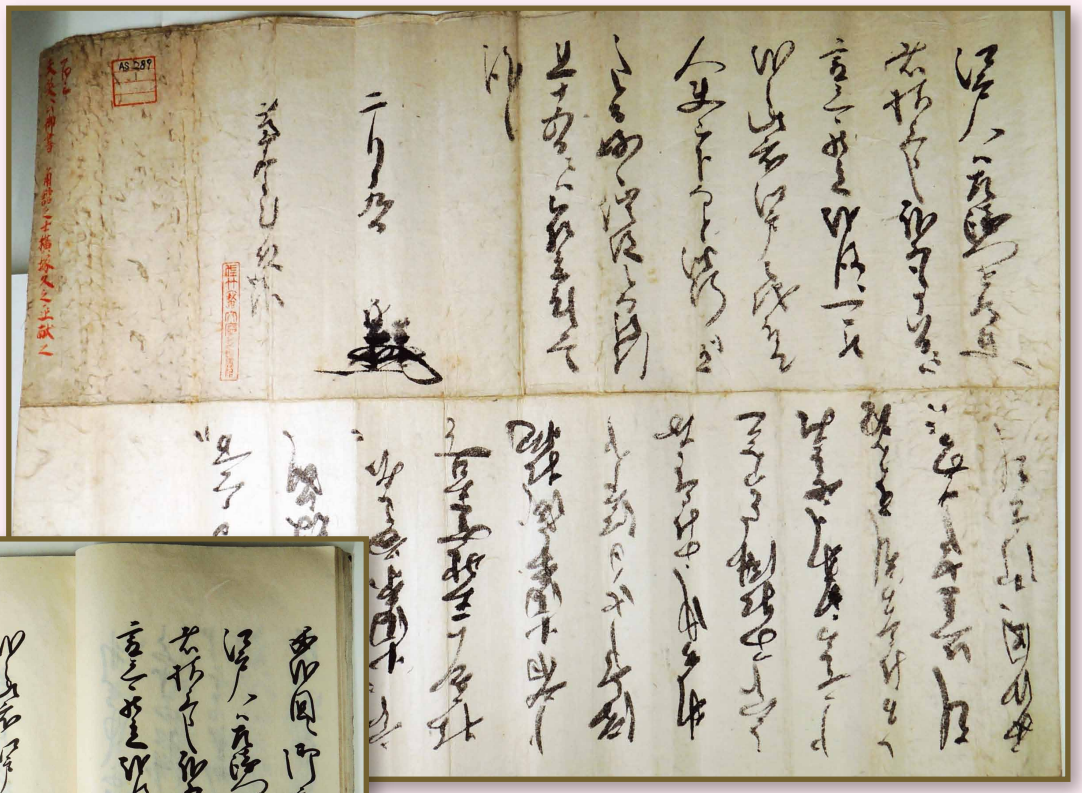
秋田県

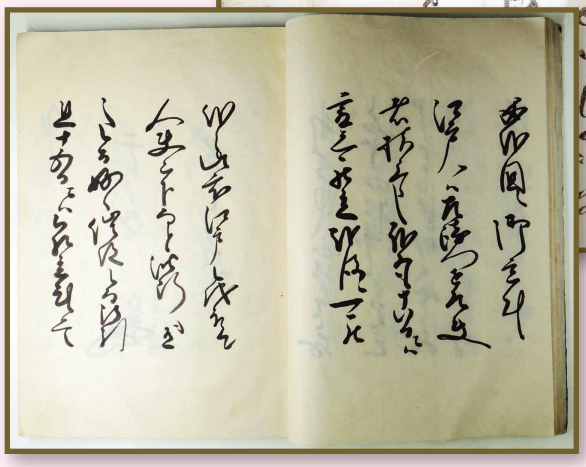
公文書館だより

第29号

平成26年3月11日



佐竹義宣書状（AS289-1）



秋田藩家蔵文書37（A280-69-37）
上の文書の写

秋田藩家蔵文書

平成二十五年三月二十二日に秋田県指定有形文化財に指定された秋田藩家蔵文書六一冊（資料番号Ａ二八〇―六九―一～六一）は、当館開設にともない秋田県立図書館から移管されました。その伝来をさかのぼれば、秋田県庁、さらに秋田藩です。

秋田藩家蔵文書は、文書所（後に記録所と改称）が文書改で確定した家蔵者ごとに写しています。そして家蔵者に文書を返却する際に、もし火災・紛失等があった場合、願い出れば、写を与えると述べています。つまり秋田藩家蔵文書は、家蔵者ごとの文書台帳という性格を持っています。

秋田藩家蔵文書は見取り写ですが、上の写真を比較すればわかるように、もとの文書の字配りや文字のくずしを正確に写そうとしています。また花押も変化に忠実なようです。しかし竪紙か折紙といった文書の形態、白紙か薄墨かなどという点には無関心です。それで文書台帳たりえるのかという疑問はありますが、当時の文書に対する関心の持ち方や認識をうかがい知れます。

開館二十周年にあたって

館長　戸嶋　明

開館二十周年の節目にあたり、これまでご協力いただいた関係機関、利用者の皆様に感謝申し上げます。

さて、当館の近況をお知らせすると、根幹業務である、記録資料の収集・整理・保存面では、二十四年度末の所蔵資料が合計十六万七千点、このうち公開数量は十二万点で開館時の二倍に増加しました。毎年度引渡される公文書の評価選別、点検・公開業務の定着等により、今後もますます充実することになります。

閲覧室

開架書棚の複製資料や翻刻本などは自由に手にとってご覧いただけます。

また、利用状況は、五年ごとの平均値で見ると、利用者数、利用点数、撮影枚数とも増加しており、当館の全国的な認知度向上が窺われます。なお二十年間の延べ利用点数は約十一万点となっています。

私は、秋田県公文書館には「三つの宝」があると常々思っています。

一つ目は、豊富で質の高い資料原本です。その特徴は、近世から現代に至る連続した期間の資料があること、内容が秋田藩の政務や儀式の記録から家老の日記、絵図、明治以降の行政文書や映像資料など変化に富んでいることです。

また、県域を広くカバーしていることも特徴で、主なものには、享保年間の領内調査の際に作成された「秋田領給人町絵図」（大館・檜山・刈和野・角館・横手・湯沢・院内）、明治十八年に作成され二十二年の合併後の町村名を朱書・区域を色分け修正したことで合併前後の状況が分かる「各郡全図」、学制施行後の小学校開設の記録、昭和の市町村合併の記録などがあります。各地の農業・殖産・交通・工芸などに関わる資料も豊富です。昭和三十年以降の県政映画などの映像資料は、全市町村の四季折々の姿を生き生きと今に残しています。

二つ目は、利用し易い環境です。閲覧室では、県指定有形文化財の古文書や戦前の布達集、統計書、及び県議会会議録や系図など利用頻度の高い資料を、複製本（二万六千点）や、翻刻刊行本（藩政期の四史料四十六巻）で見ることができます。電子化した絵図を自由に閲覧できるよう大画面モニターも設置しました。また、資料を探すには各種目録に加え七十万件の文書件名を登録した検索システムが便利と好評です。

特別閲覧室

小坂町の県立図書館・公文書館見学ツアーで来館し、公文書原本を熱心に見る皆さん

三つ目は、職員が調査研究や普及活動で培い、蓄積してきた情報やノウハウです。

昨年、小坂町の皆さんがグループで来館した際に、地元と関連深い公文書―明治八年の外国人鉱山技師に関する文書、同四十年の鉱山用貯水池の堤防決壊に伴う災害と復興への記録、大正五年の小坂専用鉄道敷設の認可書類や図面等の原本や鹿角郡全図等―をお見せしました。愛着のある地域の記録、先人の生きた証が残っていると大変喜び、熱心にご覧いただきました。

このような地域の方々の利用は当館にとっても大変有意義です。職員が展示や講座で培ったノウハウを活用し、さらに磨くことができるからです。

今年の秋には、国民文化祭が「地域の文化力を高め、文化の力で地域を元気に」を理念に秋田県で開催されます。地域の文化は、そこに生き、地域への愛着と誇りを持って暮らした人々の記録と記憶の上に成り立っていると思います。この機会に、皆さんも秋田県の記録の宝庫である当館を、地域の方々と一緒に利用してみてはいかがでしょうか。

開館二十周年記念講演を開催しました

当館では、開館二十周年の記念行事の一環として平成二十五年十一月一日、秋田県生涯学習センターを会場に、講師には古代史研究の第一人者であり、元秋田大学学長、現県立博物館名誉館長の新野直吉氏をお招きし、「古代史上の秋田―秋田　北辺の鄙にあらず―」と題して記念講演を開催しました。県内各地からの参加者は二一五名を数えました。

新野氏は、専門の古代史以外にも秋田の歴史全般に関する著書を数多く著し、本県の歴史的イメージを大きく変えた方です。また一貫してフィールドワークを重視し、早くから払田柵跡の重要性を訴えるなど本県の遺跡保存活動にも貢献しています。

講演では発掘調査を基に、大陸にあった古代渤海国との外交施設として秋田城が重要な役割を果たしたこと、東北地方が名馬の産地として史書に記されていることから考察し提唱した「北の海みち論」、現在の横手市周辺を本拠地とした清原氏が正式な姓を持ち鄙人でなかったことなど、秋田が早くから開けていたことを豊富な事例を使って紹介しました。日頃知る機会の少ない秋田の歴史の多彩さに聴衆は新鮮な驚きを覚えたようで、会場は大変な熱気に包まれていました。

講演の内容は研究紀要第二十号に掲載されており、最寄りの図書館でご覧いただくことができます。当館のウェブサイトからダウンロードも可能ですので、ぜひご利用ください。

平成二十五年度　企画展報告

秋田県公文書館所蔵文化財展

平成五年の開館以来、公文書館では所蔵資料を活用した企画展示を毎年行ってきました。今年は開館二十周年を記念して、当館が所蔵する文化財（秋田県指定有形文化財十一件、秋田市指定有形文化財四件）をすべて紹介し、その魅力とともに公文書館の歩みや役割について伝える展示を企画しました。

県指定の文化財のうち、半数近い件数を占めるのが絵図です。保存上の問題から複製・パネルでの展示となりましたが、「出羽一国御絵図」の複製パネルと同縮尺の人物写真を配置するなど、絵図の大きさを実感していただけるよう試みました。

文献資料は「梅津政景日記」など、藩政時代の資料を中心に原本を展示。昨年三月に指定されたばかりの「秋田藩家蔵文書」では、織田信長など著名な人物に関わる資料の人気が高かったようです。また、明治から昭和二十二年にかけての資料である「秋田県行政文書」からは、石川理紀之助が起案した公文書のパネルや、関東大震災の被災地支援に関わる書類などを展示しました。最後に「二十年の歩みと未来」と題したコーナーで、開館以来の主な事業とともに収集・整理・保存や調査・研究などの業務について紹介しました。

期間中は、展示された「久保田城下絵図」などを画像で見るために、閲覧室を訪れて絵図モニターの操作にチャレンジする方々の姿が見られました。今回の展示をきっかけに、公文書館の活動に興味を持っていただければ幸いです。

資料紹介

戸村家文書

戸村家文書は、秋田藩家老を輩出し、寛文十二年（一六七二）以来横手城代と横手給人組下支配を世襲した、佐竹一門である戸村家の旧蔵文書です。戸村家から秋田県立図書館所蔵となり、当館開館にともない移管されました。

戸村家文書で多数を占めるのは、幕末期に家老をつとめた戸村義効に宛てられた文書や、自らが作成した草稿や控です。義効が関わった事柄の文書から秋田藩家老の職務の一端をうかがうことができます。

戸村家文書が義効文書といっても過言でないことは、次のことからもわかります。義効とその子義得との間で頻繁に書状のやりとりがありました。それは子が父に宛てた約二〇〇点の書状からわかります。けれども父が子に宛てた書状は一点も残っていません。子は父からの書状を伝えませんでしたが、父は捨てなかったのです。

戸村家は佐竹義人の子義倭を祖とする、つまり一五世紀の、室町以来の家です。義国の時、佐竹義宣に従って秋田に移りました。ところが戸村家文書に残っている文書の時期の多くは、文久から慶応の間に偏っています。違う見方をすれば、短期間にまとまった分量の文書が残っている点に特色があるともいえます。

義効以前では、秋田藩家老をつとめた戸村義輔や義敬の日記や発給文書集等があります。義効のように多くはありませんが、戸村家文書には、家老関係の文書が残っています。

しかし、戸村家が幕末までつとめた横手城代や横手組下支配に関わる文書は乏しく、義効の日記や義得書状等の断片的な記述によらなければなりません。この点、城代や組下支配を世襲した佐竹北家や西家の伝来文書と共通する面もあるようです。

戸村家文書で見逃せないのは、全体に占める比率は高くありませんが、秋田藩主佐竹義和・義厚期に家老をつとめた疋田家伝来の文書が含まれていることです。

慶応期までの知行地関係文書約六〇点は、すべて疋田家に宛てられたもので、戸村家に関わるものはありません。反対に戸村家文書に多く残されている、家老間の通交文書に疋田家宛は、一点もありません。等しく家老をつとめた家ですが、残された文書の性格が異なります。

このように戸村家文書には、二つの家の文書が混在しています。したがって戸村家伝来と疋田家伝来に分ける必要があります。しかしいずれの家の伝来文書か判別できないものもあり、今後の課題といえます。

この他に疋田家伝来文書は、秋田県立図書館から移管された「郷土資料」と命名される資料群にもあります（資料番号Ａ二八八・三―四九―二～一二五）。

戸村家文書の全貌は、昭和三十七年（一九六二）に秋田県立図書館が刊行した目録で公開されました。図書館の目録は、独自の郷土資料分類に基づいた内容分類による優れたもので、内容分類目録の一つの到達点といえます。

今年度、秋田藩藩政文書にも古文書学が必要であるというコンセプトに基づき資料名を全面的に見直し、あわせて年次推定や日記の記主の特定等を行いました。そして秋田県公文書館所蔵古文書目録第9集資料群目録4『戸村家文書目録』（秋田藩関係文書Ⅳ）を刊行いたしました。編年配列をベースとし、図書館の目録とは異なる戸村家文書の全体像を示すことを意図しています。

刊行物紹介

絵図図録

今年度の刊行事業として、当館が所蔵する二、六六六点の絵図の中から一五八点を掲載した図録を作成しました。これは、開館以来二十年間進めてきた所蔵絵図調査・研究の集大成であるとともに、絵図撮影・データ化事業により、作成した絵図データを利用したものです。

「国絵図」「裁許絵図」「城下絵図」など八つのテーマにわけ、利用者に人気があるものの大型のため閲覧が困難な絵図や、当時の秋田の歴史がわかる特徴ある絵図が掲載されています。なかでも秋田県指定有形文化財である「日本六十余州国々切絵図」は、初めて六九点すべてを紹介することができ、非常に見応えがあるものとなっています。

絵図図録は当館や県内の図書館等でご覧いただけるほか、頒布もしています。ご購入希望の方は、左記までお申し込みください。

〒〇一一―〇九〇一
秋田市寺内字三千刈一一〇―一
秋田活版印刷株式会社
電話 〇一八(八八八)三五〇〇

平成二十五年度

公文書館講座

今年度の「公文書館講座」は古文書解読講座とアーカイブズ講座の二本立てで開催しました。今年度からの新たな試みとして、アーカイブズ講座を秋田県生涯学習センターと共催し、同センター主催の「美の国アクティブカレッジ」の一環として実施しました。

おかげさまで古文書解読講座二八二名、アーカイブズ講座一五六名、と、前年度を大きく上回る四三八名の方々にご参加いただきました。特にセンターで開催したアーカイブズ講座には、公文書館を利用したことのない方々の参加も多く、講座をきっかけに当館にも足を運んでいただければと思います。来年度も多数のご参加をお待ちしています。

古文書解読講座

【初級編】 はじめて古文書を学ぶ方を対象に３回連続で実施。

実　施　日
第1回 6/29(土)　第2回 7/6(土)　第3回 7/13(土)

【中級編】 古文書の基礎知識や解読の初歩を学んだ方を対象に３回連続で実施。

実　施　日
第1回 7/20(土)　第2回 7/27(土)　第3回 8/3(土)

【上級編】 古文書をある程度読める方、地域で活動している方などを対象に実施。

	実施日	テ　ー　マ
第１回	9/ 6 (金)	佐竹家、婦人たちの手紙を読む
第２回	9/13(金)	異国船来航と秋田藩
第３回	9/27(金)	天保期秋田藩の改革派と民衆闘争
第４回	10/ 4 (金)	城下町久保田の町人生活

アーカイブズ講座

歴史資料や公文書館の諸活動に興味・関心がある方を対象に実施。

	実施日	テ　ー　マ
第１回	10/17(木)	秋田県庁文書に見る近代国家形成の過程
第２回	10/24(木)	公文書館所蔵の近世絵図
第３回	11/ 7 (木)	公文書館所蔵文化財展をみる
第４回	11/14(木)	秋田藩家老の日記にみる元禄期と幕末期の秋田の諸相

第2回　徳川林政史研究所公開講座in秋田

「改革の幕開け―村と山の復興と秋田藩政―」

十月十二日、「改革の幕開け―村と山の復興と秋田藩政―」をテーマに、東京の徳川林政史研究所主催による公開講座が開催されました。

「江戸時代における森林の歴史の再発見」をテーマに調査・研究・普及活動に取り組んできた同研究所では、森林保護・育成に関する歴史資料の保全を目的に全国各地の資料調査を行っています。平成二十三年には秋田県内での調査・研究成果に基づく公開講座を公文書館で行い、林業関係など多くの方々にお集まりいただきました。他機関との共催事業は当館にとって初めての試みでしたが、充実した内容に続編を希望される声も多く、今年第２回を実施することとなりました。

今回は秋田県生涯学習センターが共催機関に加わり、同センター講堂を会場に開催しました。講座当日は秋田県外の方を含む八四名が参加。前半は金森正也氏（前秋田県生涯学習センター所長）・栗原健一氏（徳川林政史研究所研究員）・芳賀和樹氏（同研究員）による報告が行われ、後半は白根孝胤氏（同研究員）の司会により、質疑・討論が進められました。専門性の高い内容ながら、地域の資料や画像を活用した親しみやすい報告に、会場からも様々な質問や意見が寄せられました。

報告と質疑・討論の概要は、研究紀要二十号に掲載しています。

平成二十五年度

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議

市町村公文書・歴史資料保存利用推進会議は、県内市町村の各担当者の情報交換を通じて問題意識を共有し、公文書・古文書等の歴史資料の保存と利用について取り組みの強化を図ることを目的に毎年開催しており、今年度は開館二十周年記念事業に合わせて十一月一日（金）に開催しました。

当館からは、昨年度の会議で説明した「秋田県歴史資料調査」について引き続き報告を行いました。今年度当館では各市町村の現状を把握することを目的に「歴史資料の保存及び利用に関するアンケート調査」を実施しています。報告は、始めに当館で過去に実施した資料調査の成果について説明し、次に今回のアンケート調査結果について全県的な概要を説明しました。最後にそれらを踏まえて、公文書・古文書それぞれについて現状の課題と今後必要な取り組みについて述べました。

また、北秋田市から「北秋田市における古文書の調査とその活用」の、湯沢市から「歴史的行政資料等保存整理事業」の報告がありました。

当館では、今後も歴史資料保存の市町村支援として何ができるかという観点から取り組んで参ります。これからも調査協力や展示協力、今回のアンケート結果を基にした情報共有などで市町村との連携を深めて参ります。

公文書の引渡し・公開状況

県の各課所で作成され県庁舎地下書庫などで保存されている公文書は、保存期間経過後に当館へ毎年引き渡されます。

前年度知事部局から引渡しを受けた件数は約五、〇〇〇件（約八、四〇〇冊）です。

これらは、毎年当館の基準により評価・選別を行い、後世に継承すべき県政資料として利用者への公開等に備え、当館の書庫に保存します。

一方、当館に現在保存されているもののうち作成後三十年経過した公文書については、毎年利用者への公開に向けて個人のプライバシーを侵害する情報があるかどうかを主眼に点検し、作成原課所との協議を経て、目録作成・データベース登録など公開に向けた作業を行っています。

昨年公開対象とした公文書の内訳は下表のとおりで、合計六四六件です。どなたでもカウンターへ閲覧申請の上、原本を（非公開情報は被覆の上）ご覧になれますのでお気軽にご利用ください。

引渡し・保存状況

	引渡件数	保存件数	保存率
知事部局（平成24年度分）	5,007件（8,447冊）	692件（1,207冊）	13.8%
各行政委員会（平成23年度分）	127件（256冊）	70件（119冊）	55.1%

平成25年新規公開状況

新規公開の候補とした公文書		1,724件
内訳	公開と決定	646件
	非公開と決定	1,078件
	理由：非公開情報が多数含まれている（※1）	270件
	理由：作成原課で現在も利用している（※2）	808件

※1 非公開とすべき年数が満了した時に公開となる
※2 情報公開条例による公開請求対象となる

県政映画上映会
～懐かしき昭和三十年代の我が秋田～

今年度も八月二十五日（日）と十一月一〇日（日）に、当館三階多目的ホールにて、「県政映画上映会～懐かしき昭和三十年代の我が秋田～」を開催しました。

八月の上映会では、男鹿半島を始めとした県内有数の観光地や各地域の伝統芸能・生活文化など、ふるさと秋田が誇る有形無形の財産を記録した五本の作品を上映しました。

11月10日（日）上映「ふるさと散歩… 秋田駅」より

十一月は秋田デスティネーションキャンペーンに合わせ、秋田ならではの歴史や文化、暮らしを紹介しました。

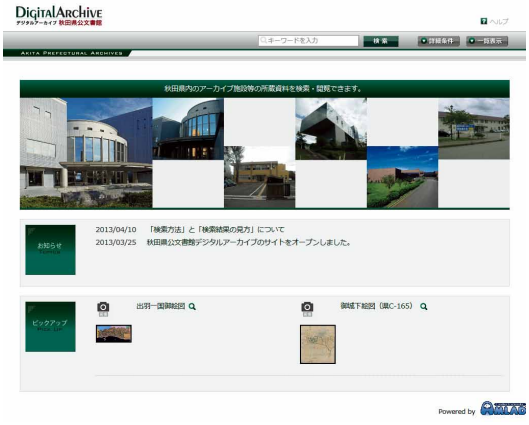
お客様の感想をいくつかご紹介します。「昭和三十年から三十年間東京にいたので、その期間のことを知ることができてよかった。」（八十歳以上、男性）、「『何かをしよう、何とかしよう、もっとどうにかならないか』と思い詰めていた時代を思い出し、良い時代であったなぁと思います。」（七十代、男性）、「昔の秋田駅の様子がわかって面白かったです。」（三十代、女性）、「白黒に慣れていないので見にくかったけど、思ったよりおもしろかったです！」（三十代、女性）、「自らの青年時代が想起され、懐かしかった。」（七十代、男性）、「自分の生まれた頃の映像にとても興味とおもしろさを感じることができた。」（五十代、男性）。

またのご来場を心からお待ちしています。

県内文化施設の所蔵資料が閲覧できます!!
「デジタルアーカイブ」のご案内

秋田県公文書館では、平成二十五年三月からインターネットによるデジタルアーカイブの公開を開始しました。初回公開分として、当館の所蔵絵図のうち県指定有形文化財の画像を掲載しています。

このデジタルアーカイブサイトは、秋田県内の文化施設が連携したサイト（秋田県デジタルアーカイブ）で、秋田県立図書館をはじめ6施設の所蔵資料を一括検索できることが大きな特徴です。



【デジタルアーカイブ秋田県公文書館　トップ画面】
http://da.apl.pref.akita.jp/koubun/

秋田県デジタルアーカイブ参加機関

●県立図書館、県立近代美術館、県立博物館、県埋蔵文化財センター、県公文書館、あきた文学資料館

秋田県公文書館の主な提供資料

●所蔵絵図のうち県指定有形文化財の画像（5件82点）を掲載。目録情報とその他絵図画像を随時追加予定。

・長辺12メートルに及ぶ江戸正保期の「出羽一国御絵図」

・松前と琉球を除く全国68国分からなる江戸寛永期の「日本六十余州国々切絵図」等

デジタルアーカイブの検索方法

●資料の検索には、キーワードで簡易に検索できる「キーワード検索」、検索条件を細かく設定して検索する「詳細検索」、カテゴリ一覧からたどって検索する「一覧表示」の3つの方法があります。

ますます充実しました

閲覧室からのお知らせ

●「秋田藩家蔵文書」のデジタル化

東京大学史料編纂所が撮影した当館の秋田藩家蔵文書を、閲覧室に設置されたパソコンから東京大学史料編纂所のサーバにアクセスし閲覧できます。当館の資料以外にも千秋文庫にある秋田藩関係の資料も閲覧できます。

この連携事業の結果、文献資料を研究者だけではなく一般県民も簡単に目に触れていただけるようになりました。

●絵図データの追加

これまで八〇九点の絵図を絵図モニターで閲覧できましたが、今年度は、すでに撮影を終えていた絵図三点をデータ化し、さらに新たに一点を撮影しデータ化したため、計四点が追加されることになりました。

この四点は、いずれも江戸幕府の国絵図作成に関わると考えられていますが、大型のため、原本の閲覧は困難でした。これにより、自由に移動・拡大させながら描かれている内容を細かい部分まで読み取ることができるようになりました。

閲覧室設置のパソコン（右）から、家蔵文書をご覧いただけます。

●開架複製資料の追加

閲覧室内で自由にご覧いただける複製資料がさらに充実しました。

国文学研究資料館が所蔵している「佐竹南家文書」は、佐竹の御苗字衆で湯沢の所預であった佐竹南家の資料です。その一部は平成十二年に複製本を作成していましたが、平成二四年に追加分七六二点を撮影し複製本を作成、今年度開架しました。

こうして国文学研究資料館所蔵の「佐竹南家文書」は、全資料を一四四冊の複製本で閲覧することができるようになりました。

平成二十六年度

行事予定

◆企画展

「アーカイブズで秋田の文化を探れ！」（仮）

前期　8月23日～9月23日

後期　10月31日～11月30日

◆公文書館講座

●古文書解読講座

6／28・7／5・7／12・7／19・7／26・8／2（すべて土曜日）

●古文書解読講座・上級編

9／5・9／12・9／19・9／26（すべて金曜日）

於：公文書館

●アーカイブズ講座

10／17・10／24・10／31・11／7（すべて金曜日）

於：県生涯学習センター

◆県政映画上映会

第一回　8月31日（日）

第二回　11月3日（月）

◆古文書相談日

毎月第二・第四火曜日

（ただし8月12日、9月23日、12月23日、3月24日は除く）

開館時間が変わります

利用案内

◆開館時間（平成26年度）

平日　9時～19時

土日・祝日　10時～18時

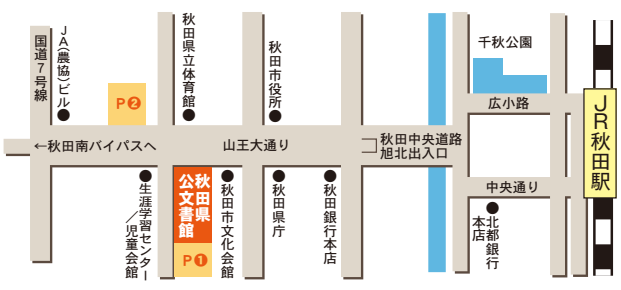
◆休館日（平成26年度）

4／2・5／7・7／2・8／6・9／3・10／1・11／5・1／7・2／4・3／4

年末年始（12月28日～1月3日）

特別整理期間（6月2日～8日）（12月1日～7日）

周辺案内図



編集発行：秋田県公文書館
〒010-0952　秋田市山王新町14-31　電話018（866）8301
URL　http://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/

この印刷物は二、〇〇〇部作成し、その経費は一部当り二四・〇〇円です。